

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
事業分析	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である 公立の保育施設における安定的な園運営を実現するための事業であるため。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある 直接的な影響は、保育園等に入園している児童とその保護者となるため、影響範囲は限られるものの、保育業務の負担軽減につながる本事業は、保育者が園児一人一人に向き合う時間の確保につながり、園児及び保護者にとって大きな利益がある。安全・安心な保育園運営のためには、必要な事業である。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	増加させるべきだ 運用の精査による事業費削減は検討しつつも、保育士の離職防止を図り、保育士確保を推進するために、より一層の事務の効率化による業務の負担軽減に取り組む必要があることや保護者の利便性向上も含めて、必要なICT機器の追加配備等については、積極的に実施すべきである。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい 外部委託等の検討については、現状想定できない。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である 小牧が掲げる「子育てしやすいまち」の実現に向けて、保育の質の一層の向上は大変重要であり、安全・安心な園運営に係る費用については、直接的に受益者負担を求めるものではないと考える。